



福祉介護の県コンテスト

駒工高生徒が発表 介護器具「リフター」

福祉や介護分野の課題を解 学生が考えたアイデアを審査 決しようと県内の高校生や大 する県主催のコンテストが5



介護現場で利用できるように考案 した「リフター」をPRする駒ヶ根 工業高校の生徒。5日、長野市内

校3年生7人のうち、磯部丞 さん(18)率いるグループが考 案した。高齢者を床からベッ ドに上げる想定で、医療用ス トレッチャーを参考に、脚 部を折りたためる仕組みに。 車部品の「ダンパー」を補助 装置として活用し、簡単に持 ち上げられるようにした。

設計に当たっては、介護施 設への聞き取りを踏まえて身 長約180㎝、体重約85kgの 利用者に耐えられる構造にし た。磯部さんは「施設で大変 そうに利用者を移動させる職 員を見て発想した。高齢化が 進んでいるが、福祉のために 若者のアイデアを提案してい ければ」と話した。

コンテストは、多様化する 介護・福祉のニーズに、生徒 や学生の発想を生かそうと企 画され、県社会福祉協議会が 運営。高校や大学、専門学校 などが対象で、この日は書類 の一次審査を通過した駒ヶ根 工業高や信州大、長野大など 11の個人・グループが参加。 高校の参加は同校のみだっ た。

審査結果は10日に発表し、 上位5グループは20日に駒ヶ 根市文化センターで開く県社 会福祉大会で表彰と発表の機 会を設ける。(唐澤翔)

日、長野市内 で開かれ、駒 ヶ根工業高校 (駒ヶ根市) の生徒が要介 護者の移動に 役立つ器具 「リフター」 などを発表し た。脚部を可 動させて体が 不自由な人を ベッドの高さ まで上げるこ とができ、考 案した生徒は 「介護職員の 負担を減らし たい」とPR した。 コンテスト に参加した同